

洛西ニュータウンまちづくりビジョン（案）に対する意見の概要と検討会の考え方

分野	意見の概要	検討会の考え方
全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ○ なかなか良いビジョンである。 ○ まちづくりビジョン案は、洛西ニュータウンの現状をよくまとめていると思う。方針についても、30余年前に京都市が描いた理想像を大きく外れることなく、予想された課題が発生しつつあることや歯科医師会の用地転売問題が起きたことを確認した点に大きな意義がある。また、ここで新しくビジョンを作成し、まちづくり推進の仕組みをつくり、活動を始めることに大きい意義を感じる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ビジョンに書かれていることはどこの地域でも課題になっていることだと思う。他の地域でも取り組んでいく必要があるのではないかと。サブセンターの店があまり流行っていないが、誰もが大型スーパーに車で行くのは時代の流れで仕方がない。ニュータウンのバスが不便だといわれるが、他の地域に比べると便利である。ニュータウンよりも不便なところから取り組んでほしい。 	<p>まちづくりビジョンは、まち開き（入居開始）から30年を迎え、住民や事業者、行政などが協働して取り組む必要のある課題、方策などをまとめ、策定したものです。今後、他の地域にも地域の実情に応じた取組が進んでいけばと考えます。</p>
ビジョンの実行・実現について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私達に何を望むのか。自分は何が出来るのか。具体的な方法が、ビジョン案では見えてこない。 ○ ビジョン案は、頭だけで後は何も見えないように感じる。誰が汗を流すのか。 ○ 住民が望む内容になっているが、実現行動計画が示されていない。絵に書いた餅にしないためにはどうすればよいか。 ○ 検討会では、管理公社、商店会、市営住宅、府営住宅、管理公社のビジョンをうかがい知ることができなかった。 ○ アイデアだけ出しておいて実現されなければなんの価値も生み出すことはできない。ビジョンを具体的に推進していくことを切にお願いしたい。マンション問題によって得た教訓は決して風化させてはならない。 ○ 行政がどのような対策をとるのか。検討会は終わるのか。この後、どのようになるのでしょうか。 ○ 洛西ニュータウンだけの問題でなく、日本全体の問題も含んでおり、推進にあたっては分けて検討する必要がある。 ○ まちづくりビジョン案検討推進にあたっては住民と行政の共同で進めるものであるが、洛西支所の取組にはがっかりさせられた。 ○ できることからやっていく。また、長期的なことを考える。いずれも大切なことだと思う。 ○ まず、できること、急ぐことから取り組む。中長期的なことには、推進のための体制、仕組みをつくり実現化していくことを望む。 	<p>まちづくりビジョンは、住民や事業者、行政などが協働して取り組む必要のある課題、方策などをまとめ、策定したものです。</p> <p>今後、それぞれでビジョンの具体化を図っていくこととなりますが、その一方で、「第6 2 ビジョンの推進体制」で掲げるとおり、「洛西ニュータウンまちづくり協議会（仮称）」を立ち上げ、住民や事業者が取り組むものを中心に、取組の優先順位やスケジュールなどを検討し、ビジョンの具体化を図っていくこととなります。</p> <p>また、「おわりに」に「ビジョンの策定は、将来を考える第一ステップであり、このビジョンを広く住民に周知するとともに、今後も継続して住民参加の下で、議論を重ねていく」ことを掲げています。</p> <p>「第6 まちづくりビジョンの推進に向けて」の項を設け、目指すべきまちの姿を実現するための先導的な取組として4つの戦略を掲げています。</p>

<p>○ まちづくり案が各種法令の範囲内でできない場合の対応はどうするのか。</p>	<p>基本的に各種法令を遵守しながらまちづくりビジョンを進めていくことになると思いますが、必要に応じて運用等の変更が必要な場合は、その見直しも含めて取り組んでいくこととなると考えます。</p>
<p>○ あるべきまちの姿としてあまりにも総花的で全方位に目標があり過ぎる。もう少し焦点を絞ったほうがよいのではないか。</p>	<p>「第5 まちづくりの目標と考えられる方策」では、多面的な観点から様々な取組を掲げていますが、「第6 まちづくりビジョンの推進に向けて」の項を設け、目指すべきまちの姿を実現するため、「緑とゆとりの保全」や「世代間の支え合いと共生」を先導し、少子化・高齢化対応にも結びつく4つの戦略を掲げています。</p>
<p>○ このビジョンは市長へ答申するのか。</p>	<p>まちづくりビジョンは、行政だけでなく、住民や事業者などが協働して取り組む必要のある課題、方策などをまとめ、策定したものであり、市長から諮問し、答申するという形がとられていません。今後、このビジョンの推進に関わる行政機関はもちろん、洛西ニュータウンの住民や関係団体等に対し、ビジョンの周知に努めるべきであると考えています。</p>

<p>第5 1 風景・まちなみ ~美しい風景や自然の豊かさを体感できるまち~</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周辺地域の優れた歴史的なものとマッチする自然豊かな風景を次世代に引き継ぐ。 ○ 緑豊かな町が大事である。 ○ 「時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会」の「中間とりまとめ」の三方の山々の内縁部における住宅地などの施策を取り入れ、洛西ニュータウンにふさわしい土地利用のあり方、建物の高さ規制を取り入れて欲しい。 ○ たくさんあるビジョン案の項でひとつでもふたつでも、早く具体的の実現できたらと思う。例えば「まちなみを守るためのルールの強化」は早くしないとどんどんくずれていく。 ○ 本当に急がないとまちなみが現在もくずれつつある。この趣旨の発言がまちづくりフォーラムでもあったが、切羽詰まった気持ちを感じた。必要なルールの強化（高さ、容積率の引き下げ）は是非早期にと望む。 ○ 残念なことは、購入時、京都市が関わり、金融公庫の融資が受けられるということで安心できたことを思い出す。タウンハウスには建築協定付で売り出されていたのに、道をはさんですぐのところに思いもよらない建物が建った。当初の関係者の方は、こうなることを考えていたのかと思う。地区計画の取組を進めているが、それで本当に守りきれぬのか。 ○ 開発当初に基本となった「京都市洛西新住宅市街地開発事業地における景観構成に関する調査研究報告書」を将来ビジョンの基本に据え、「新洛西ニュータウン景観構成」として土台にすべき。 ○ 竹の里地域に住んでいるが、低層住宅が開発されている地域に高さ 20m、容積率 300%の都市計画は不合理である。 ○ 京都市内の住宅地で容積率が 300%であるのは、洛西ニュータウンと向島ニュータウンのみである。また、2階建てから14階建てまでが共存している現状を解決するには早急に現在の高さ規制と容積率を現状の町並みにあわせることから始める必要がある。 ○ 2階建て地区は高さ 10m、容積率 100%、5階建て地区は高さ 15m、容積率 100%、5階建て以上の地区は高さ 20m、容積率 100%とすべき。 	<p>まちの緑やゆとりを守り、次世代に引き継ぐことは検討会としても非常に大切なことであると考えており、以下の事項を掲げています。</p> <p>洛西ニュータウンは、洛西ニュータウン景観構成の研究報告（（社）日本都市計画学会）に基づいて計画的に建設されたまちである旨を記載しており、「(1) 優れた自然や風景が身近なまち」、「(2) 四季の表情を感じることでできる緑豊かなまち」、「(3) 風景と調和した、美しくゆとりあるまちなみを守っていくまち」を目標とすることを掲げています。</p> <p>また、「第6 まちづくりビジョンの推進に向けて」において、「【戦略1】自然環境の保全と美しいまちなみづくり」の項を設け、周辺の景観と調和したゆとりあるまちなみを守り、次世代に引き継いでいけるよう、そのために必要なルールの強化を早期に図っていくことを掲げています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区計画や建築協定のない地域については、行政より計画立案を働きかける。 	<p>「(3) 風景と調和した、美しくゆとりあるまちなみを守っていくまち」を目標とし、考えられる方策の中に「地域単位の自主的なルールづくりへの支援」を掲げていますが、意見を踏まえ、建築協定制度や地区計画制度の住民への普及についても掲げます。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 敷地境界が斜めになっているところに、垂直にポールや塀を建てて増築をしている家があるが、建物の建て方や奇抜な色などの規制も必要。 	<p>「(3) 風景と調和した、美しくゆとりあるまちなみを守っていくまち」を目標とし、考えられる方策の中に「建物の優良なデザインを誘導するまちなみガイドラインの策定」を掲げています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第二外環の建設によって西山の美しい姿がどう変貌するのか。現在も超高压電流の鉄塔が山頂に異物として映っているが、電磁波の影響が危惧されている。 	<p>「(1) 優れた自然や風景が身近なまち」を目標とし、美しい自然や風景を守り、将来に引き継ぐまちづくりを掲げています。ここには、建物に限らず周辺環境も含んでいると考えています。</p>
第5 2 住まい ~ 豊かで自立 した生活を すごせる住 まい~	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今の世帯数を上限とする人口と住宅環境では高齢化が必然となる。従って、二世帯構想を基本にした街づくりで活性化を取り戻す。 	<p>「(1) 多様な世代・世帯が暮らせる住まい」を目標とし、考えられる方策の中に、「多様な世帯の入居に対応できる多様な間取りの住宅と住戸の提供」を掲げています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ エレベーターのない集合住宅にエレベーターを設置する。経過措置として高層階からの住み替え制度を実施する。 ○ 高齢者の住み替えを支援するシステムを開発する。 	<p>「(2) 高齢者や障害のある方が安心して暮らせる住まい」を目標とし、考えられる方策の中に、「共同住宅での共用空間や住宅内部のバリアフリー化の推進」を掲げていますが、「(1) 多様な世代・世帯が暮らせる住まい」を目標とし、考えられる方策の中に、意見を踏まえ、「住み替えシステムの開発」についても掲げます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市バスなど、足腰が弱ってきているものはステップが高く乗りにくい。 	<p>「(2) 高齢者や障害のある方が安心して暮らせる住まい」を目標とし、考えられる方策の中に、「ノンステップバス導入の推進」を掲げています。</p>
第5 3 まちの施設 ~みんなで 育てるまち ~	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車の放置、ゴミの散乱、公園の雑草、小畑川のゴミ等が目につく。 ○ 緑道や歩道にゴミや犬の糞が大変多く、せつかくの景観・風景を台無しにしているので、(美化推進強化区域)の指定でもっとステキなまちにと思う。 ○ 「京都市美化の推進及び飲料容器に係る資源の有効利用の促進に関する条例第9条(美化推進強化区域)」の指定を受ける必要がある。 	<p>「(2) みんなで守り育てる公園やみち」を目標とし、まちの財産である公園や道路の管理について、住民と行政との協働により、守り育てることを掲げています。</p> <p>また、意見を踏まえ、考えられる方策の中に、「まち美化住民協定運動の推進」を追加します。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 落ち葉による堆肥づくりに取り組んでいるが、緑の多いまちだからこそできる取組である。花いっぱい運動や生ゴミの処理、福祉施設での野菜づくりなどにつなげることもできる。公園に落ち葉を積む場所をつくり、落ち葉NPO等を造り、学校での教育なども含めた作業をやる。 	<p>「(2) みんなで守り育てる公園やみち」を目標とし、考えられる方策の中に、「街路樹里親制度の積極的な活用」を掲げています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車椅子で洛西のどこへでもスムーズに移動できるかを検証し、改良・改善を実施する。 ○ 坂の勾配がきつく、けが人やベビーカーを押す方には少し厳しいと思う。 ○ バリアフリーの促進を望む。具体的には、境谷本通の歩行者・自転車道の新設とタウン内に2箇所ある交差点の歩道橋撤去であり、自動車のための歩道橋は、歩行者、特に足腰の弱い老人や障害のある方、妊婦にとっては通行時の最大の障害である。 	<p>「(2) みんなで守り育てる公園やみち」を目標としていますが、意見を踏まえ、「子どもから高齢者、障害のある方が安心して利用できるようにその整備と管理に努める」ことを掲げます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大小公園のリニューアルを実施。その際、公園近辺の連合会・自治会単位で管理を含めたリニューアル計画の策定を行う組織を立ち上げられれば継続できるのでは。 ○ まち開き30周年を機に、子どもから高齢者までが使える公園にリニューアルを進めてはどうか。できる範囲で住民が守っていく取組も必要。 ○ 所々にベンチを置いて、休憩できるようにしてほしい。 	<p>「(1) 多様な世代が交流する公園」を目標とし、考えられる方策の中に、「住民参加型の公園再生プロジェクトの実施」を掲げています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 趣味でテニスをしているが、施設等が近場であり、満足している。 	
<p>第5 4 生活の便利 ～便利で活 気あふれる まち～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 洛西ケーブルビジョンを有効利用する。例えば、通話できるようにする。また、キーボードや音声入力で双方向通信を出来るようにする。 	<p>RCVによる高度な情報通信サービスの実施は将来的な課題だと考えています。</p> <p>なお、「5 生活の支援」の項では、「(4) みんなで支える安心安全のまち」の考えられる方策の中に、「RCVを活用したまちの安心安全対策」を、また、「6 交流」の項では、「(1)多様な市民活動が広がり、交流するまち」の考えられる方策の中に、「RCVを活用した市民活動情報のより効果的な提供」を掲げています。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ メイン・サブセンターといった従来の「ニュータウンの理論」自体に無理が出ていると思います。 ○ 徒歩数分の範囲内にちょっとした買い物のできる店舗がなくなってしまったのが残念である。コンビニでもよいのできてほしい。 ○ 日常の買い物が不便で、これから高齢化が進みますます住みにくくなるので、老人向けコンビニなどができないか。 ○ 会館の使用料などをもっと安く（1日500円位に）して、気軽に体力増進や趣味などで集えるように。 	<p>「(2) みんなが集うサブセンター」を目標とし、商業機能の向上やコミュニティ活動の拠点としての機能強化など、身近で気軽に集えるサブセンターの再生を掲げています。</p> <p>また、「第6 まちづくりビジョンの推進に向けて」では、「【戦略4】身近な地域拠点と交通環境づくり」の項で、サブセンターのあり方について、住民が自ら考え、育てていくという視点で、商業の活性化に向けた住民の支援や、コミュニティ活動の場、生涯学習の場、ボランティア活動の拠点としてのサブセンターの利用を促進することを掲げています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車中心の社会から人間中心の社会にするため、住民と行政が協力する。 ○ 京都市地球温暖化対策条例でも自動車等の使用に伴う温室効果ガスの排出の規制を図るための施策として、自動車から公共交通機関への利用の転換の促進をうたっている。自動車の利用頻度と使用目的、騒音の把握（道路から住宅までの距離を考慮したアンケート調査）を行い、バスや自転車、歩行に転換できる方策を打ち出すべき。 ○ 住環境を保全するためには、「静けさ＝憩える、安らぎ」が必要であるが、多くの通過交通がこれを妨げている。大気汚染と騒音の弊害を受ける恐れがあり、これらへの対応の取組は如何か。 ○ 主要道路において、住宅と車道間に適正距離が確保されていない上に、道路構造やガード設備が防音効果を有しない。騒音対策のために生け垣を壊してコンクリートの塀にするケースもあり、緑化推進とは逆の動きとなっている。 	<p>「(4) バランスのとれたみんなが利用しやすい公共交通」を目標とし、歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組を掲げています。</p> <p>また、「(4) バランスのとれたみんなが利用しやすい公共交通」の考えられる方策の中に、「交通モラルの向上に向けた取組」を掲げています。</p> <p>また、意見を踏まえ、新たに「(3) 環境に配慮したまちづくり」を目標に加え、考えられる方策に、歩いて暮らせるまちづくりの実現や、環境に配慮したまちづくりの推進につながる取組を掲げます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緑道へのバイク乗り入れ禁止バリカーの増設（死亡事故が発生してからでは遅い） 	<p>「(4) バランスのとれたみんなが利用しやすい公共交通」を目標とし、考えられる方策の中に、「交通モラルの向上に向けた取組」を掲げています。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緑豊かなまちも大事だし、交通関係が大事だと思う。 ○ バスの交通ネットワークを再構成する。 ○ 市街地と洛西ニュータウンとを結ぶ時間の短縮が必要である。 ○ バス交通については、交通関係の委員会を設置する。 ○ 桂駅へのバス本数、種類は問題ないが、JR向日町へのバスの昼間の本数が少なく、また、市バスがない。 ○ ニュータウン内のコミュニティバスを考えてほしい。 ○ これだけの人口があり、市政の怠慢による交通事情の悪化にもかかわらず、市バスの特別区扱いは早急に改善の必要があると考える。 	<p>「(4) バランスのとれたみんなが利用しやすい公共交通」を目標とし、考えられる方策の中に、「住民のニーズに対応するバランスのとれたバス運行計画等の事業者への提案」を掲げています。</p> <p>また、「第6 まちづくりビジョンの推進に向けて」では、「【戦略4】身近な地域拠点と交通環境づくり」の項で、バス交通について、地域全体のバランスや採算性も考えながら、住民にとってより便利なものとなるよう改善を図っていくことを掲げています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地下鉄の延伸にかかる運動を推進してほしい。 ○ 地下鉄を延伸してほしい。 ○ 30年前の計画では地下鉄がくるはずだった。未だ諦めていない。この運動も進めてほしい。 ○ 公共交通の未整備のため、マイカーに頼らざるを得ず、渋滞や路上駐車が増えて環境を悪化させている。南福西からは桂駅へのバス以外はほとんど無い。年をとっても安心して居住していく場所としては心許ない。四条河原町及び京都駅とつなぐ電車の導入を望む。 	<p>「(4) バランスのとれたみんなが利用しやすい公共交通」を目標とし、考えられる方策の中に、「地下鉄延伸の必要性の市民へのアピール」を掲げています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ LRT等の代替も含めて前進してほしい。 ○ JR新駅、阪急洛西口駅との接続も考慮して人と環境にやさしい新交通システムの導入を検討できないか。 	<p>「(4) バランスのとれたみんなが利用しやすい公共交通」を目標とし、考えられる方策の中に、「LRT等の新しい交通システム導入の必要性の検討」を掲げています。</p>
<p>第5 5 生活の支援 ～みんなで 支え合い心 豊かに安心 してすごせ るまち～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 急速な高齢化に伴って人間関係が大事だと思う。例えば、顔を合わせた場合、挨拶をすることが大事だと思う。 ○ 町内会の役員になりたがらない人が増えた。この人々をどう引き込んで地域を一体化するかが最大の問題である。 ○ 若い人は、仕事があり、家にいる時間が少ないので、大変だとは思いますが、町内での会合等に積極的に参加し、お年寄りと交流する。 	<p>「(3) 高齢者や障害のある方の生活を支えるまち」や「(1) 子どもが安心安全に元気に育つまち」を目標とし、考えられる方策の中に、「子どもへの声かけ、あいさつ運動の展開や子どもと地域のふれあいの場づくりの推進」や「老人クラブの友愛訪問等一人暮らし高齢者の孤立化を防ぐ対策の強化」を掲げています。</p> <p>また、「(5) 自治会活動やコミュニティ活動が活発なまち」を目標とし、考えられる方策の中に、「自治会活動への住民の参加促進や自治会活動に参加した住民の交流促進」を掲げています。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者のための配食サービスや独居老人が昼間過ごせる場所があるといい。 ○ 児童館をよく利用している。子どもが楽しく満足しているので、親としても助かる。 ○ 保育園の一般開放は、助かる制度であるが、週に一度の開催である。保育園の負担も大きいと思うので、公的助成支援や参加者の低額負担等により、保育園の負担を軽減し、開放日を増やして欲しい。 ○ 竹の里地区は2学区に分かれているが、わざわざ遠くへ通っている子どもがおり、生徒減少の現在ではその意味がないので、元に戻す。 	<p>「(3) 高齢者や障害のある方の生活を支えるまち」を目標とし、考えられる方策の中に、「高齢者福祉サービスの充実と情報提供の推進」や「健康すこやか学級のような地域福祉活動の場としての学校活用」を掲げています。</p> <p>「(2) 子育てを地域で支えるまち」の項で、考えられる方策の中に、「保育サービスの充実」や「学童サービスの充実」を掲げています。</p> <p>自治会活動等の活性化に関して、学区の範囲の定め方について、検討会でも意見が出ており、まちづくりビジョンにおいても、今後とも検討すべき課題として掲げています。</p>
<p>第5 6 交流 ~元 気に交流し、 魅力を発信 するまち~</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誕生して30年が経ち、今更「ニュータウン」という必要はなく、「洛西タウン」と名称変更して、住民同士の触れ合いとコミュニケーションを豊かに満たされている街を作ればよい。 ○ もっと近所の方と話し合える場所が欲しいと思います。 ○ ボランティアをしてみたいと思っても、どこに行けばよいのかわかりません。 ○ 若い人が住みやすい町にするため、近くの勤務先情報を発信する。 ○ 学校の空き教室を、子ども、若いお母さん、経験豊かなお年寄りを交えた楽しい場として利用する。例えば、ギャラリー、工作、絵画、料理教室等。 ○ 子ども、老人すべての世代の関わりの場を創設していくことがまちづくりのベースになると思う。 ○ サブセンターでのコミュニティだけでなく、学校の空き教室を活用し、コミュニティを創設することで、世代間の関わりを生み、子どもからお年寄りの笑顔、まちづくりにつながると思います。 	<p>「(1) 多様な市民活動が広がり、交流するまち」を目標とし、活動団体同士の相互交流を図ることにより、活動をアピールし、人の輪を広げ、取組の多様化や充実が進むよう取り組むことを掲げています。</p> <p>「(2) 多様な世代を惹きつけるまちづくりが広がるまち」を目標とし、多様な世代、特に若い世代へのまちの情報発信を掲げています。</p> <p>「(3) 地域や世代を超えた交流が広がるまち」を目標とし、考えられる方策の中に、「空教室や空店舗を活用した世代間交流の場づくりの推進」を掲げています。</p>

	○ 長岡京市や向日市に、今後、住宅地の開発が広がることを考えられるので、これらの地域との協力、協働が必要だと思います。	「(3) 地域や世代を超えた交流が広がるまち」を目標とし、洛西ニュータウンと周辺地域の連携や交流に取り組むことを掲げています。
第6 - 1 4つの戦略 の推進	○ 「まちなみや自然環境の保全」については、多くの住民がそれを望み、これからも支援が得られる計画だと思う。	
	○ 昔は自分たちの家を持つという目標があり、何事にも前向きになれたが、子育て家庭を地域社会が応援するという目標を今の若い方々にアレンジすることが大切。この場所で若い人々が生活を楽しみ、子育てを楽しむ、この街に誇りを持つような形態を築くことだと思う。精神的な豊かさが得られるまち、それに向かって一層努力できる土壌づくりが大切。	「第5-5 生活の支援」の項において「(2) 子育てを地域で支えるまち」を目標に掲げていますが、「第6 まちづくりビジョンの推進に向けて」においても、「【戦略2】子どもを育てる地域環境づくり」の項で、若い世代が洛西ニュータウンに住み続け、また、まちの外から転入してもらえよう、住民、事業者及び行政がそれぞれの役割を果たしながら、相互に連携した様々な取組を展開する中で、子どもを育てる場にふさわしい地域環境を整えることを掲げています。
	○ どうすれば若い人達が住みやすく、子育てがしやすい町になるのか。私に協力できることがあればしたいと思う。	
	○ 若い人が住みやすい町にするため、公営住宅の家賃を下げる。	
	○ 子育て支援の方策については、子育て真最中の若い方々の意見を、より多くヒアリングするべきだと思う。また、幅広く、かつ、より深く討議するため、ブレインストーミングのような手法を取り入れてはどうか。	子育て世代のニーズの把握は課題と考えており、意見を踏まえ、「【戦略2】子どもを育てる地域環境づくり」の項で、取組の前提として、子育て世代のニーズの把握が必要なことに言及します。
○ 「3 団塊の世代の地域社会への参加促進」と「4 身近なところで生活を支援する環境づくり」については、記載されている方向で住民自らの努力で可能だと思う。		
○ これから増加することが予想されるリタイアした団塊の世代を活用した施策を検討して欲しい。	「第6 まちづくりビジョンの推進に向けて」の一つに「【戦略3】熟年世代が活躍できる地域づくり」を設け、団塊の世代に着目した取組を掲げています。	

<p>第6-2 ビジョンの 推進体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 洛西ニュータウンの魅力がより高まっていく確かな手ごたえを感じています。住民が行政や事業者を引っ張っていくようなまちづくりが広がっていくことを楽しみにしています。 ○ 戦略の実践を推進するための仕組・組織づくりが非常に大切である。 ○ 今後、このビジョンを実行するための場作りが大切です。 ○ 住民と行政による推進母体を設置して鋭意取り組む必要があり、早急に組織化して検討会を終えることを提言する。 	<p>意見を踏まえ、「第6-2ビジョンの推進体制 (2) ビジョン推進のための体制づくりと活動支援」で「まちづくりビジョンを具体的に実現するために、取組内容や進め方をリードするまちづくり推進体制として、「洛西ニュータウンまちづくり協議会(仮称)」を立ち上げる」ことや、「(3) 地域とともにあるまちづくりの推進」を掲げます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年後に点検ミーティングをしてはどうか。 	<p>意見を踏まえ、第6-2「(3) 地域とともにあるまちづくりの推進」で、「取組の報告会を実施することにより、広く住民への周知を図る」ことを掲げます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学区ごとに、連合自治会の中に置くかどうかを検討しながら、既存のボランティアグループなどにも参加してもらい、「わがまち推進隊(仮称)」という部会をつくるよう行政が働きかける。「わがまち推進隊」の中には活動ごとの分会(建築、公園・街路、子育て、学習、パトロールなど)を作る。分会の中には更に、活動ごとに班を作り、班ごとに活動する。分会は地域の身近なところから、地域の住民が活動を推進する。4学区ごとに相互に啓発しながら活動のレベルを向上させ、年次の活動報告会なども企画し、行政との連携を深める。 ○ たーちゃん&まーちゃんコンビ(タウンミーティング企画委員会)を解散せず、西京区洛西支所内に「まちづくり企画委員会」を常設し、相談窓口サービスを続けて欲しい。 ○ 大学生、シニア、地元住民によるチームをつくり、町内ごとに何をするのか具体的に話す機会をもってはどうか。地域住民の理解を深めていくと、進められることが多くなります(地域の方は、やはりまだ受身なのではないか) ○ ニュータウン創設当時、学区ごとに自治会を作成するよう京都市が指導していた記憶がある。自治会活動は学区ごとにかなり温度差がある。自治会や自治会の外で活動している住民団体も組み込んだ洛西ニュータウンの「まちづくり推進の仕組」づくりに期待する。この活動の項で、自分もどこかで参画したいと思う。 	<p>今後の取組に関する貴重な提案であり、今後のビジョン推進のための仕組みづくりに参考になるものと考えています。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○ このビジョンを具体的に実現していくことが最重要課題であり、そのためには、住民、有識者、行政からなる実行組織を立ち上げ、4学区の連合会への協力とお願いが必要である。 ○ ビジョンについての説明会等を連合会ごとに実施し、連合会として取り組めることや意見の集約をお願いし、それぞれで「まちづくり委員会」を設置して今後のまちづくりの推進を図るべき。 	<p>今後の取組に関する貴重な提案であり、ビジョンの推進に当たっては、最も身近で基礎的な地域コミュニティであり、地域の親睦や地域課題の解決に重要な役割を果たしている自治会の役割は極めて大きいと考えています。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ ビジョン案の内容を実現していくにあたり、いかに洛西ニュータウンの人達に広めていくのか。特に、20代、30代の人に興味を持たせるのかということを考えていくのか。また、実行していくのが大きな課題だと思います。 ○ 参加者の多くが男性高齢者であるのを見ると、若い人の出番はなさそうだった。 	<p>「(3) 地域とともにあるまちづくりの推進」の項で、地域全体を巻き込んだまちづくりを進めていくことや、まちづくりに関する情報の発信の必要性を掲げています。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 洛西ニュータウンまちづくり検討会やタウンミーティング企画委員会のホームページを作成して欲しい。また、自治体（支所、消防、警察、保健所等）や学校、町内会、自治連もホームページを作成して欲しい。 ○ R C V等のメディアと協力して継続して情報提供をして欲しい。 ○ 住民に対する検討会についての PR では提案したものの実現しなかったが、支所やラクセーナ商店街での掲示板を設置し、R C Vを活用すべき。 	<p>これまでのまちづくり検討会やタウンミーティングの取組については、京都市のホームページに掲載しており、西京区のトップページからアクセスできます。</p> <p>また、「(3) 地域とともにあるまちづくりの推進」の項で、まちづくりに関する情報発信の必要性を掲げています。</p>	
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ タウンミーティング企画委員会の皆様、検討会の皆様、本当にご苦労様です。 	